



# 加治川小だより

新発田市立加治川小学校 第4号  
新発田市上今泉 366 番地 1 Ⅱ 33-2435  
児童数 237 人 (R 4.7.8 現在)

ホームページアドレス <http://kajikawa-e.shibata.ed.jp/>

## フェアプレー

校長 丸山 久志

盛夏の候、早いもので一学期もあっという間に過ぎ、29日には終業式を迎えます。これまで各種行事などを通して、子どもたちがいきいきと活動している姿をたくさん見ることができました。

さて、7月の全校朝会ではフェアプレーについて話をしました。ある中学校のバスケットボール部を例に、フェアプレーの大切さについて子どもたちと一緒に考えました。

最初、全く勝てなかったチームが、約650校の頂点に立ち、優勝します。この間、バスケットボール部の顧問の先生が大切にされたことは、フェアプレー精神です。

この先生は次のように言っています。

「ゲームは、相手がいて初めて成立する。だから対戦相手は『敵』でなく、ナイスゲームを共に作る『パートナー』である。どんなに強くても、相手のミスや反則を喜んでいては、敬意や称賛は得られない。審判が気持ちよく笛を吹けてこそナイスゲームは生まれるのだ。」

たいせん  
対戦  
あいて  
相手

=

パートナー

この言葉からは、相手チームに対する敬意の気持ちが感じられ、フェアプレーの精神を根底において指導していることが伝わってきます。

### 日常生活におけるフェアプレー精神

フェアプレーの精神は、スポーツをしている時だけでなく日常生活においても、大切です。日常生活でも自分の考えや行動について善いことか悪いことかを自分の意志で決められることがフェアプレー精神です。さらに、自分自身に問いかけた時に、恥ずかしくない判断ができる心(魂)をもつことも求められています。

よく考えてみると、加治川小学校の子どもたちもこの精神に基づいて学校生活を送っています。例えば、「授業中の友達の間違ひは、勉強の種をまいてくれたんだと感謝していること」「友達の役に立つことを進んで行っていること」「全校の友達にいつも気持ちのよい挨拶をしていること」など、学校生活のあらゆる場面で見受けられます。

このフェアプレー精神を深く定着させていきたいものです。当校職員も、そして、保護者・地域みなさんも、子どもたちの健やかな成長のために、手を取り合って様々な取組を行っています。

フェアプレー精神に基づいて、子どもたちへの願いや、子どもたちを取り巻く環境などについて、気付いたことがありましたらご意見やご要望をお話してください。私たちも、ご家庭でこんなことをしてほしいなどのお願いをしていきます。そして、お互いに謙虚に受け入れ合いながら一緒に良い方策を考えて、共に子どもたちの健やかな成長の応援団として取り組んでいきましょう。このような、フェアプレー精神が子どもたちの成長に直結していくものと確信しています。

夏休み中、子どもたちは、家庭・地域で過ごす時間が長くなります。これまでの生活の中で育ててきたフェアプレー精神を、夏休み中の家庭や地域でも意識して生活することを願っています。